

令和6年度 江戸川区立鹿骨小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	自立と貢献 〇よく考える子 〇思いやりのある子 〇じょうぶな子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」の調和のとれた児童」の育成を果たす学校 ・自立し貢献する児童 ・組織人として共通実践し、各学年での指導責任を果たす教職員	
前年度までの本校の現状	成果	学校公開の保護者の感想や年度末評価において、おおむね満足いただいている。全国学力学習状況調査や東京ベーシック・ドリル診断シート、学校独自の標準学力調査においても、着実に学力向上が図れている。	課題	・全体的に学力は向上してきているが、高学年になるほど学力定着の二極化が見られる。 ・特別支援教育の視点に立った学校運営、学級経営を推進していく必要がある。 ・周年、統合に向け、地域との連携をさらに深めていく必要がある。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	〇授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得	・各ブロックにおける一部教科担任制の実施	・全学年で年間を通して教科担任による授業や合同授業を実施。	A		A	・全学年で教科担任制による授業や合同授業を実施できた。	A	・教科担任による授業を受けることで学力の向上がみられる。複数の教員が児童をみることができる。					
		・業者による放課後補習教室「カムバック教室」、全教員による補習「サンライズ教室」の実施	・カムバック教室年150回、サンライズ教室年35回以上を実施。	B		B	・9月初旬までに放課後補習教室を42回、サンライズ教室を12回実施した。	B	・カムバック・サンライズ教室を継続的に実施することで成果が出ている。					
	〇読書科の更なる充実	・朝読書・昼読書の時間の設定、・学校図書館の環境整備や興味・関心を高める取組の推進	・年間延べ23時間以上・館内室内板、年3回の読書月間におけるおすすめ図書紹介	A		A	・読書月間に読書ビンゴを行った。図書委員会で作成していたしおりがなくなってしまうほど、読書量が増えた。	A	・読書ビンゴを行うことで興味や関心が高まる。読書月間だけでなく終了後も継続できる取り組みがあるといよい。					
体力の向上	〇運動意欲や基礎体力の向上	・毎朝マラソン、マラソン週間の設定	・マラソン週間を全学年年間3回実施	D		D	・毎朝マラソンは実施できていないが、マラソン週間は今後取り組んで行く予定である。	D	・マラソンに限らず日常的な運動習慣につながる取り組みが必要である。					
		・なわとびチャレンジウィーク・なわとび大会の設定	・学期に1回2週間全学年で実施 ・低・中・高において3回外部講師を招いた授業を実施	A		A	・学期に1回「なわとびチャレンジウィーク」を実施した。毎週水曜日は、全校でなわとびに取り組んだ。外部講師も招いて全学年授業を実施できた。	A	・外部講師を招いての授業は、児童の関心を高めた。					
		・夏季水泳教室、校内水泳大会の実施	・夏季水泳教室6回実施、25mを泳げる高学年児童70%以上にする	D		D	・熱中症対策で校内水泳大会は行わず、検定日を2回設けた。練習時間確保が難しかったため、26%の達成となった。	D	・熱中症対策で計画に沿った実施が難しいが1学期に集約するのは良い対応 ・高学年は90%以上は25mを泳げるようにしたい。					
教育の推進 実現に向けた	共生社会の実現に向けた教育の実施・充実	〇ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導の実施・充実	・来年度統合する松本小学校との交流活動	D		D	・6年生は日光移動教室で同じ宿舎に泊まり、交流を図った。今後、全学年で交流予定。	D	・松本小との交流は継続したい。共同で班を作って何かに取り組むような施策を入れたい。					
		〇エンカレッジルームの活用促進	スマイル教室（エンカレッジルーム）、教育相談室の環境整備	A		A	・1学期中に必要のないものを取り出し、学習や軽めの運動ができるスペースを確保し、活動しやすい空間を作った。	A	・エンカレッジルームの存在や活用意義、多様な児童の存在についてもっと学校から発信していきたい。					
不登校の充実に 対応	〇個に応じた指導の実施	〇教育相談の強化	不登校児童や配慮が必要な児童への支援の充実	A		A	・毎月1回以上校内委員会を実施した。全員面談も終え、個々に必要な支援を確認し、不登校児等へ働きかけを行っている。	A	・カウンセラーの取り組みは大切だが、成果を得ることは難しい。支援についても、広く周知したい。					
		・hupaer-QUの活用	③児童の実態把握に基づいた指導の推進	A		A	・結果を基に、各担任から実態について説明し、情報共有を図った。	A	・学年、クラス単位、学校全体としての特色があれば共有したい。					
		〇学校（園）ホームページの充実等	学校ホームページの積極的な配信	B		B	・2日に1回程度、各学年の様子を学校日誌で配信した。	B	・個人情報保護の観点もあるが、画像が短い。					
学校（園）の 開かれた 実現	地域社会に 開かれた 実現	学校（園）公開の実施・充実	教育活動の積極的な公開	B		B	・9月までに3回学校公開を実施し、参観アンケートも行った。ご意見は全員で共有した。	B	・アンケート結果を共有し、改善につなげたい。					
		学校関係者評価の充実	保護者評価の実施 学校関係者評価の実施	B		B	・関係者評価を2回行った。学校評議委員会が出た意見もまとめ、教職員に周知した。	B	・ホームページの更新が充実している。					
		「花の寄せ植え活動を始めた」として、地域への愛着や誇りを高める取組の充実	地域の花園やPTAと連携した花の寄せ植え活動やPTA花壇の花植え	B		B	・PTAと連携し、全学年で花寄せ活動を1回行った。PTA花壇も随時手入れをした。	A	・花の寄せ植えは、地域の伝統的な取り組みで児童の心を豊かにしている。					
教育の 特色ある 展開	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	会議時間の短縮、校務支援システムの活用	校務支援システムの活用率100%にし、月の時間外勤務時間平均60時間以内を設定	B		B	・校務支援システムで情報共有を行い、会議時間を短縮した。時間外勤務時間60時間以内の教員が割合程度だった。	B	・周年や開校行事がある中、勤務時間の短縮化をはかることは難しい。校内のITシステムの改善が必要。					
		「教員研修の実施」	教員の組織的な育成	A		A	・全教員が指導案を作成し、授業観察を行った。授業後、全教員と面談し、授業改善プランを伝えた。	A	・年間を通じて時間外での研修がある ・小さな学校なので情報共有がしやすい。					